

## 中門

堂々たる中門は塔と金堂のある法隆寺の中心伽藍への入り口である。力強い守護神である金剛力士が門の両側に控えている。塑像である金剛力士像の役割は寺門を護ることであり、特筆すべきは、これらの金剛力士像が、千年以上にわたって守護者としての任務を果たし続けている、という事実である。

この門は西院伽藍への入り口だが、その通り道はひとつだけではない。2つの入り口が並んで設置されており、「分割された入り口」となっている。この入り口の形式には、伽藍内の建物の配置が反映されているとも云われる。建物が一直線上に並ぶように配置されていた同時代の寺院と異なり、法隆寺では金堂と五重塔が横並びに配置されているので、中門の入り口もそれを反映して「分割」されているというわけであるが素直に建物の大きさから割り出された柱の数によると考えるのが自然かもしれない。中門の他の特徴としては、大きく張り出した庇と、それを支える腕木の複雑なシステムを挙げることができる。これは、巨大な屋根の重さを複数の柱に分散して伝えるために設計されたもので雲形のもののは飛鳥時代のみの様式である。